

かわさき区の宝物シート

宝物No.
10-7

すいちょうのまつり 水鳥の祭

エリア	大師地区	シーズン	秋
	大師周辺	日時	10月の第3日曜日

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



「大蛇丸底深」の墓塔
(池言坊)



水鳥の祭350周年記念碑



写真提供：若宮八幡宮・水鳥の祭実行委員会

所在地	川崎区大師駅前2-13-16
問い合わせ	若宮八幡宮 水鳥の祭実行委員会(石渡燃料店)
TEL	044-222-3206(若宮八幡宮) 044-288-5885(水鳥の祭実行委員会)
FAX	044-233-3060(若宮八幡宮) 044-288-5861(水鳥の祭実行委員会)
E-mail	
URL	http://tomuraya.co.jp/wakamiya-6.htm (e-大師ネット/若宮八幡宮)
交通	京急大師線川崎大師駅よりすぐ



基礎情報

■「川崎方」池上太郎左衛門幸広とその一族15名。対するは「江戸方」茨木春朔とその仲間17名。両軍の間で繰り広げられる壮烈な「大師河原の慶安酒合戦」—『水鳥記』に描かれた史実を350年後の現代に再現した水鳥の祭が毎年10月の第3日曜日に開催される。実在の登場人物に扮し、役者顔負けの派手な衣装を身につけた参加者が大師周辺の商店街を練り歩き、大盃で日本酒をぐいぐいと飲み干す「酒合戦練り行列」や「口上合戦」では多くの見物客から喝采と野次が浴びせられ大いに盛り上がる。

■最終決戦場となる若宮八幡宮では「和睦の舞」が披露され、全国から集まった銘酒のふるまい酒もあり、投げ餅、鏡開きなどが行われる。

■水鳥の名の由来は、「酒」という字がサンズイ<水>と酉<鳥>から成っていることから付けられたという。平成7年(1995)の第1回開催以降回を重ねている。

由来・エピソード

■大師河原の開拓に成功し名主となった池上幸広(大蛇丸底深)と江戸の医者で儒学者の茨木春朔(六位酒宮地黄坊樽次)がそれぞれ一族や仲間を引き連れて、実際に1649(慶安2)年に行われた酒呑み合戦を綴った物語が仮名草子『水鳥記』である。茨木春朔一派が江戸から大師河原に乗り込み、迎え撃った池上幸広一派と、三日三晩にわたり酒豪ぶりを競った。

■川崎大師平間寺で「侍」衣装を身につけた江戸方17名が酒樽を積んだ大八車とともに攻め寄せる。一方、川崎大師駅前には船に大漁旗をなびかせ酒樽を積んで「どたら」衣装の川崎方15名が待ち受ける。互いに問答を交わしながら若宮八幡宮に練り込み、舞台上で大将同士の決戦が行われる。激しい呑み合戦に互いの健康を心配した僧侶の仲裁で和睦が成立し(史実では江戸方が勝利をおさめたという)、決着は翌年へと持ち越される。

■練り行列途中の商店街各所の店頭では商店主と、口上合戦では助っ人として一般も参加しながら様々な酒呑み合戦が繰り広げられ、酒饅頭や酒風呂を提供する銭湯もあり、地域一丸となったまさに参加型の一大イベントである。全国15もの蔵元・メーカーから大量の銘酒が提供されるが、お酒は一滴も残ることはないという。

補足・その他

■平成11年(1999)5月、池上家32代目幸政・よ志子夫妻によって酒合戦「350周年記念碑」が若宮八幡宮境内に建立された。

■リハーサル1回のみというぶっつけ本番に近い素人役者のアルコール入り口上合戦が“最大の見どころ”といわれている。

■練り行列役者、口上合戦助っ人の一般の参加申込可能。原則として役者は1ヶ月前まで。

関連シート

(10-2)池言坊
(10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
(10-10)川崎大師表参道
(10-13)川崎大師仲見世通り
(10-17)川崎大師平間寺
(31-3)池上幸豊